（公財）コープともしびボランティア振興財団

2017 年度事業報告ならびに決算報告

【 2017 年度事業報告 】

1. 支え合う地域づくりをめざし、多様な活動に取り組む 150 グループに対し、総額 912 万 4 千円のボランティア活動助成を行いました。
2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を応援するため、地元企業７社から寄付を得て、「やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、２グループに対し、各 50 万円の助成を行いました。また、同プロジェクトの賛同企業とのコラボイベントとして、「ちくわラン」を開催しました。
3. 財団設立２０周年記念事業の１つである「地域の居場所立ち上げ助成」は、３年目を迎え、最終年として３グループに対し約 45 万円の助成を行いました。
4. 「古本募金　きしゃぽん」の取り組みが広がり、72 万円を超える寄付額になりました。

Ⅰ. 地域やくらしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援

1. ボランティア活動助成

（１）2017 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額（円）	助成給付率（%）
①	福祉	高齢者	32	1,313,000	14.4
		障がい者	21	1,493,000	16.4
		地域住民	7	201.000	2.2
		在日外国人	1	108.000	1.2
		施設・病院	2	24.000	0.3
		その他（子育て中の親）	2	191,000	2.0
		合計	65	3,330,000	36.5
②	まちづくり		6	350,000	3.8
③	文化・芸術		4	486,000	5.3
④	国際協力		3	274,000	3.0
⑤	男女共同参画		1	135,000	1.5
⑥	子ども育成		41	2.717,000	29.8
⑦	環境の保全		28	1,661,000	18.2
⑧	その他　※		2	171,000	1.9
合　　計			150	9,124,000	100.0

※その他　は生活環境

（２）「市民活動交流会 2017」を開催

2017 年５月 17 日には、財団から「ボランティア活動助成」を受けるすべてのグループが一堂に会する「市民活動交流会 2017」を生活文化センターで開催しました。今年度は交流会の冒頭に「やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト」のお披露目も行い、賛同企業の紹介と感謝状の贈呈を行いました。この交流会の企画・運営は例年通り、助成団体の代表者による実行委員会が担当しました。

また、実行委員会で推薦のあった「舞子坂ふーみん」と「浜・川・山の自然たんけん隊」の２グループが、1 年間の活動を報告しました。参加グループからは「先進的な活動事例が聞けて、刺激になった」との感想が寄せられました。

その後のグループワークでは、各グループの活動の紹介とともに、活動の課題や目標について、活発に情報交換が行われました。この会を通して、顔の見える関係ができ、互いのグループを訪問したり、一緒にできる活動を企画するなど、その後の連携のきっかけになっています。

（３）スタッフがグループ訪問し、地域課題を共有

2017 年度助成をしているグループをスタッフが積極的に訪問し、グループがとらえている地域の課題や、活動の現状についてヒアリングを行いました。

1 年間で、31 グループについて訪問しましたが、その内容についてはチーム会で共有化を図り、テーマによっては運営委員会でも論議し、支援のしくみについて検討しています。2018 年助成から新設した「きらり助成」も少額助成を求める声により、実現しました。その他、リーダーのなり手、広報についても課題が多く聞かれています。

2. 社会人の学びと研究助成

（１）２０１７年度助成対象者

この助成制度は、「ボランティア活動を担う人を育てる助成」として 2006 年度にスタートしました。応募者の在籍大学の偏りや目標設定の見直しのため、2014 年度・15 年度は応募を中止、2016 年度に応募を再開して、今年度は下記の 2 人の方に助成を行いました。7 月 24 日に公開報告会を企画し研究の成果を共有する予定です。

お名前	在籍する大学院	研究内容
久保　宏紀 （30 万円）	神戸学院大学大学院　総合リハビリテーション学研究科	地域ボランティアの協力を得ながら、高齢者の身体機能を経年的に測定し、呼吸機能の低下による肺炎の発症予防について研究。その内容を健康パンフレットにまとめ、地域ボランティアと一緒に介護予防に取り組む。
井原　一久 （20 万円）	大阪市立大学大学院　創造都市研究科	地域スポーツクラブ「アスロン」を運営する NPO の理事長。神戸市や兵庫県と学校体育における連携事業などを実施。スポーツクラブの地域の居場所としての有用性について研究し、地域課題を解決しうるコミュニティとしての在り方を探る。

（　）内は助成金額

３．　「地域の居場所立ち上げ助成」

（１）３年目として、３グループを助成　　上限 30 万円/団体

2017 年 10 月 6 日に､｢地域の居場所立ち上げセミナー&助成金説明会｣を開催し、48 名が参加しました。セミナーでは、昨年度同助成金事業として採択された「おうちごはんとくらしの学び舎ままや」と、「赤穂市地域活動連絡協議会」が事例報告しました。同じ志を持つ人との交流や、今後の情報収集を目的に参加した人も多く、活発に交流が行われました。結果として 5 件の応募があり下記 3 件の活動に対して、2 月 16 日に開催した運営委員会の場で助成を決定しました。

◇2017 年度「地域の居場所立ち上げ助成」3 グループ

グループ名	開設場所	活　動　内　容
コネクト∞～発達障害を考える会～（200,000 円）	宍粟市	発達障がい当事者や親、ﾟートナー(理解者、支援者)が月 1 回集い、困り感を出し合い、解決方法を探ると共に、研修会の開催、支援団体の視察等を行う。また、居場所周知のためにチラシを作成し、当事者による講演を行う
上山口東自治会 ”みんな集まれ”（163,782 円）	西宮市	週 1 回、自治会館にて子ども食堂を運営し、遊び場・自習の場・子ども同士のふれあいの場の提供を行う。2～3 年後には老人食堂、囲碁・将棋等趣味の場を開設し、孤独死を減らすため、コミュニティの輪を広げていく
cafe&Bar スタンド・バイ・ミー in セラピー・ラボ（80,000 円）	神戸市須磨区	カフェ 2 階の空きスペースを活用し、中高年に対して傾聴、箱庭療法等様々な形態の癒し(セラピー)を提供。さらには若年層への啓蒙にも広げ、不登校、引きこもり等の若い人たちの問題を解決に導く支援を実施する

（　）内は助成金額

（２）３年間の成果

本助成は 20 周年記念事業として、2015 年度から 3 年計画で取り組み、今年度助成で終了となります。当財団にとっては、懸案だった「テーマ型助成」かつ「立ち上げ時の助成」を実現した助成金制度となりました。これまでの２年間に助成した団体は、下記の 8 グループで、すべての団体が現在も活動を継続しています。

◇2015 年度助成団体

尼崎 ENGAWA 化計画、つながるまんまるぅサロン、

なだ・ワークライフ・カフェ、舞子坂ふーみん

◇2016 年度助成団体

おうちごはんとくらしの学び舎「ままや」、七丁目クラブ、

赤穂市地域活動連絡協議会、カフェ ボンジュール

この助成は、一旦終了しますが、一定の成果があったことから、2019 年度以降、必要に応じてテーマ型の立ち上げ助成を行います。

４．　「やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト」

（１）第１回「やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト助成」

（上限 50 万円/団体、総額 100 万円）

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を、賛同企業と力を合わせて応援しようと、「やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト」を立ち上げました。

この助成では財団としては初めて、「NPO など法人格のある団体も応募可能」とし、対象団体の幅をひろげました。

第 1 回目となる今年度は 29 団体が応募し、書類選考を通過した 7 団体が 7 月 4 日の公開選考会に進みました。当日は、59 名が参加する中、各団体がプレゼンテーションを行い、賛同企業とともに選考し、下記 2 団体への助成が決定しました。

グループ名/プロジェクト名	活動内容
特定非営利活動法人 多言語センター　ＦＡＣＩＬ （50 万円） プロジェクト名　/ 地域医療のコミュニケーション改善プロジェクト	多様な地域住民が安心して医療をうけられるまちを目指し、医療従事者向け「医療通訳の使い方」講座と「わかりやすい日本語で伝えるコツ」講座を開催。日本語の理解が不十分な住民と医療従事者のコミュニケーションをサポートする医療通訳者の育成のため、医療通訳講習と医療通訳座談会も行う。
特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー （50 万円） プロジェクト名/ 認知症になってもあんしん「認知症ライブラリー事業」	閑静な龍野の城下町にある空き家を改修して、住民や城下町を訪れる人々が気軽に利用できる「認知症ライブラリー」を作る。「認知症ライブラリー」では認知症に関する書籍や研修資料などが閲覧できるほか、専門職による相談会や本人・家族の会、認知症サポーター養成講座等を定期的に開催する

（２）賛同企業の拡大

2016 年度に地元企業 7 社のご賛同により、プロジェクトを立ち上げました。

2017 年度は地元企業という枠を外して賛同企業を募集しました。コープこうべの宅配事業、店舗商品部などのご協力により、6 社が新たに加わり、合計で賛同企業は 13 社となりました。

13 社のご寄付による総額は 160 万円、次年度はこれを助成金として新たに 4 月から助成グループを募集しています。

５．　ひと育て、学びの場の充実

（１）研修事業を実施・助成

「ボランティア活動に参加してみたい、学んだことを広げていきたい、今よりもレベルアップしたい」方に向けて地域で企画された講座に対して、助成を行いました。4 地域のコープこうべ地区活動本部が主催し、12 講座に 331 人が参加しました。

認知症の基礎知識や最新の研究内容に基づいて認知症を予防する講座や、コミュニケーションの大切さや、対人援助についてより深く学ぶ講座などが開催されました。参加者が、新たにグループを立ち上げるなどの動きにつながっています。

（2）新しい課題についてセミナーを実施

2017 年度は「ひょうご子どもカフェ」とともに主催団体の１つとして「子ども食堂」をテーマとした全国キャラバンのセミナーを開催しました。すでに子ども食堂を実施している団体が参加し、現状の成果と課題について情報交流しました。

※「ひょうごこどもカフェ」は兵庫のみんなで子どもの貧困を考え、行動していくゆるやかなネットワーク。行政職員、弁護士、学識者、NPO 法人など様々なメンバーが参加しており、当財団も 2016 年度から参加しています。

Ⅱ. 地域に当財団の理解者、支援者を拡大

１.「やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト」コラボイベント開催

同プロジェクトのキックオフイベントとして賛同企業の１つである「カネテツデリカフーズ株式会社」さんとともに六甲アイランドで、「寄付つき　ちくわラン」を開催しました。

当日は台風が近づくあいにくの雨にも関わらず、９３人が参加し、ランだけでなく、ちくわづくりや、健康チェック、カネテツさんの商品の試食などを楽しみました。また、視覚障がいのある方の歩行やランを応援している「ひょうご伴走歩協会」のメンバーも参加して活動紹介も行い、ボランティアメンバーの募集も行いました。

参加者は小学生から４０代の若い層が中心で、このイベントが財団について関心を持っていただくきっかけになりました。次年度も、賛同企業と、コラボイベントを開催する予定です。

２.　助成グループの活動を積極的に広報し、共感を広げる

（１）ツムギスト（広報ボランティア）の活動

地域に支援者を広げていくためには、助成金がどんなグループや活動に活用されているかについて広報することが最も有効なのではないかと考え、2017 年度は助成グループの広報に力を入れました。

その１つとして、財団の評議員でもある桜間裕章氏（神戸新聞社　前論説委員長）を講師にお迎えし、ツムギストの養成講座を行いました。ツムギストは助成グループを実際に訪問して、地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、”物語“を紡ぐ広報ボランティアです。初年度の今年は、コープこうべの職員を対象に講座を行い、終了後に 7 人のツムギストが、8 グループを訪問しました。

ツムギストによる、”物語“は、財団のホームページに掲載しています。この活動は、取材されるグループに大変喜ばれたこと、また記事を見て活動への問い合わせなどの反応があったことから、次年度も継続します。

（２）ホームページで助成グループのイベントを掲載

グループが財団に支援してほしいこととして、「広報活動」があることを受け、2017 年度から、助成グループが広く参加者を募集したいイベントや学習会について、財団のホームページへの掲載を始めました。１年間で 29 件掲載しましたが、問い合わせがあるなど好評で、効果を実感したグループからは継続的に掲載依頼があります。

（３）募金などの広報ツ―ル

10 月の集中募金のチラシ、ポスター作成にあたっては、3 つの助成グループを取材し、その活動内容を訴えることで、募金を求めました。

３． 財団の認知度などについてアンケートを実施

2018 年１月に、コープこうべの地域活動推進部と連携し、コープ委員を対象に財団の認知度や募金経験の有無などについて、アンケートを実施し、２月末で、1,796 人から回答が寄せられました。

このアンケートは、身近な支援者であるコープこうべの組合員に対し、財団として現状把握するとともに、アンケートを通して、財団の理解や再認識をしていただく目的で実施しました。結果については、4 月のコープ委員会全体会で報告し、今後の財団の広報活動に役立てていきます。

Ⅲ. コープこうべとの連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を向上

１．広報強化の継続・発展

（１）コープこうべの事業媒体に掲載

2017 年度も、コープこうべの関連部署による広報活動が行われました。

①コープステーション（A4 変型判・約 120 ページ） 2018 年 2 月発行 85,000 部
当財団の「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」について、山口理事長のインタビューとともに掲載されました。

②『めーむ』食品編 欄外情報（タブロイド・カラー）1 月 4 週号 47 万部発行

③ 店舗情報誌（カラー）店名下広告欄 2018 年２月 9 日発行 100 万部

（２）SNS の活用

財団主催のイベントや講座だけでなく、地域で財団関連の取り組みがあった場合などに、「コープこうべ SNS」に書き込み、職員とのやりとりの中で、多数の反響が得られています。今後も、SNS を通して、コミュニケーションをすすめます。

２．人材育成の連携強化

（１）財団の研修やセミナーなどへのコープこうべ職員の参加促進

設立者であるコープこうべ職員の財団理解者を増やすことで、職員を通して地域に財団への理解が広がることをめざし、2011 年度から、コープこうべ職員の、財団の講座や取り組みへの参加をすすめています。2011 年度～2016 年度の 6 年間は職員の参加者は合計で 336 名でした。2017 年度も、研修や行事を行い、１年間で 98 名が参加しました。

（２）財団サポーター登録の推進

2016 年度から財団の応援団としての職員を増やすため、サポーター登録を開始しまた。2018 年 3 月現在、全体で 50 人がサポーター登録しています。財団のチラシを地域に配布したり、イベントや研修のサポートなど、次年度以降も活動いただく予定です。

３．資金調達の連携強化

（１）賛助会費・寄付・募金について

		2015年度実績	2016年度実績	2017年度目標	2017年度実績
賛助会費	個人	1,065,000	1,076,000	2,000,000	892,000
	法人	990,000	960,000		930,000
賛助会費合計		2,055,000	2,036,000	2,000,000	1,822,000
寄付	個人	1,254,555	1,224,733	4,000,000	1,538,756
	法人	301,684	1,080,139		1,600,000
	まいくる	806,145	903,043		938,538
	つり銭チャリティー	972,571	870,193		947,633
寄付合計		3,334,955	4,078,108	4,000,000	5,024,927
募金	集中募金	4,151,470	3,220,781	3,000,000	2,759,624
	めーむポイント	3,972,797	2,917,000	3,000,000	1,680,700
	ｲﾍﾞﾝﾄ募金	35,361			150,000
	きしゃぽん　※		200,482	240,000	723,841
	その他	10,716	7,821		1,528
募金合計		8,170,344	6,346,084	6,240,000	5,315,693
総合計		13,560,299	12,460,192	12,240,000	12,162,620

※2016 年度から古本募金「きしゃぽん」が始まりました。

（２）古本募金「きしゃぽん」の取り組み

2016 年の 7 月から新たに取り組み始めた「古本募金　きしゃぽん」は組合員の年代、ニーズにマッチし、2017 年度は大きく実績を伸ばしました。組合員からの要望で、回収ボックスを常設するコープの事業所も増え、現在 21 か所に設置しています。

組合員まつりの一環として取り組んだり、「古本市」を行い、売り上げを財団に寄付してくれたコープ委員会もありました。小さなお金の積み重ねですが、今年度は、計 723,841 円の募金に成長しました。次年度は、さらに工夫し、取り組んでもらえる人を増やします。

（３）夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用 1 食あたり 0.5 円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しており、今年度は 930,000 円になりました。

４．基本財産運用

2017 年 2 月 8 日に、「ザ・ゴールドマン・サックス」（年間利率 2.3%）が早期償還され、利回りが期待できるものがなかったため保留していましたが、7 月 28 日に、「モルガンスタンレー(ステップアップ債)」（年間利率 0.99% 5 年ごとに 0.05%アップ）に買い換えました。また、2018 年 3 月 30 日に「ザ・ゴールドマンサックス」(年間利率　1.28%)が早期償還するとの報告を受け、同銘柄「ザ・コールドマンサックス」(年間利率　0.91%)への買い替えを決定しました。

2017 年度運用状況は、資料 1-1 のとおりです。

【 2017 年度決算 】

2017 年度決算報告は、次ページ以降の「平成 29 年度（2017 年度）決算報告書案」のとおりです。